

## ミニシンポ 春季研究集会 2003年

日時：2003年4月25日（金）午後13時30分～17時

場所：函館市内、ぎよれんビル 3F会議室（下記地図参照）

テーマ：「輸入圧力下の沿岸漁業」をめぐる諸論点

話題提供：〈いずれも仮題です〉

1) 沿岸漁業の再編方策を考える

板倉信明氏（北大大学院水産科学研究科）

2) 中国コンブ養殖の生産動向とわが国におけるコンブの需給動向

金子 宏氏（マルキチ食品株式会社・代表取締役社長）

3) ホタテガイの需給動向とホタテガイ養殖業の再編方向

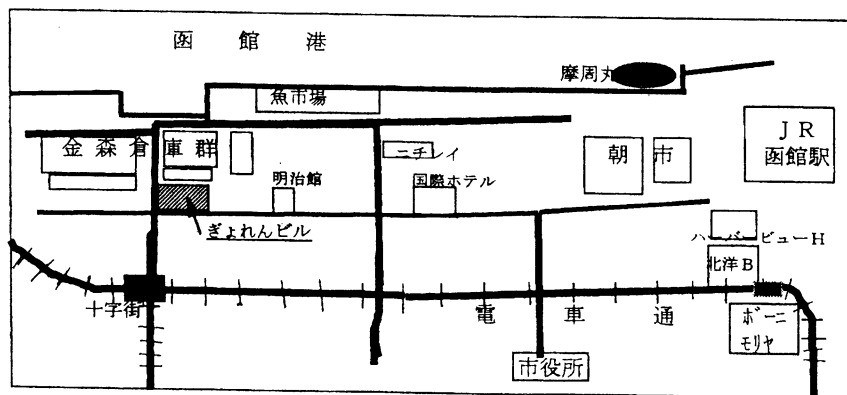
鷲下孝一氏（北海道漁連・函館支店次長）

4) 規制緩和と食料政策

三島徳三氏（北大大学院農学研究科）

コメンテーターの発言と総合討論：

コーディネーター・司会：宮澤晴彦氏（北大大学院水産科学研究科）



ぎよれんビル・3F会議室（函館市豊川町11）：函館駅より約1km、電停：十字街

## 今年度春季研究集会（ミニ・シンポ）の狙い

コーディネーター：宮澤晴彦（北大）

昨年度、盛岡市で行われたシンポは「輸入圧力下の沿岸漁業」というテーマで実施されました。今年の秋の大会シンポはそのPART IIということでさらに深めてみる考えでおります。そこで、春季研究集会ではプレ・シンポとしては、北海道・道南地域の主要水産物の一つであるコブ、ホタテガイを取り上げつつ輸入への対応を余儀なくされている産地、漁業、漁村の現状、及びわが国の食料政策の問題等の側面から話題提供と検討を願いたいと思います。ところで、「輸入圧力下の沿岸漁業」という問題については、輸入圧力の現れ方が水産物によって異なるので、それぞれに具体的に検討してみるのも有意義なことだと思います。けれども、それ以上に「このテーマそのものになお深めるべき課題が多い」ということをあらためて考えたいと思います。第1は、「輸入圧力」の今日的評価如何という問題です。水産物輸入の大量化の流れをどう捉えるべきなのか。食料政策のあり方（消費を含め）の転換の可能性についてはどうなのかといった論点についてさらに深める必要があると思われます。第2は、輸入拡大の論理、要因をどのようにとらえるかという問題です。かつては国内の減産、不足を補うという意味での輸入も少なからずあったと思います。しかし、価格要因、需要構造、為替相場の変化、またWTO体制をめぐる食料政策や輸入相手国側の社会・経済的諸事情等も大いに気になるところです。こういった諸要因を整理し「水産物輸入の構造」を明らかにすることは今後の漁業のあり方等を検討する意味でも重要です。第3は、輸入の実相を水産物商品の多様性やマーケットの重層性に留意して具体的に把握するという課題です。輸入水産物が誰の手で、どのような商品形態としてわが国のマーケットに入り込んでいるのか。また、国産品となりがどう競合しているのか、「輸入圧力」の実態解明がなければ具体的な影響も対策も考えることはできないと思います。第4は、輸入に対抗する国内漁業の方向をどうみるかという問題です。国産品については差別化や付加価値向上が必要だといわれているようですが、長引く不況の影響が深刻化する中で、そのような方向に展望はあるのでしょうか。農漁業に対する世界的な動向に照らし、わが国の沿岸漁業及び漁業政策のあり方を改めて問うべき時期にきているように思われます。

以上、さし当たりの問題意識を述べてみましたが、これらの論点全てを今回のミニ・シンポで十分にカバーすることは難しいと思います。話題提供者、参加者の多面的な討論をお願いします。

### ☆新入会員の紹介

包 特力根白乙（鹿児島大学大学院博士課程）

坂本 寛（鹿児島大学大学院生博士課程）

高橋 祐一郎（農水省 農林水産政策研究所）

ひやま漁業協同組合（団体会員）

### ☆秋の大会開催計画について

今年の第32回大会は10月9日、10日（於：北海学園大学・札幌市）とすでに決定しています。シンポテーマは「輸入圧力下の沿岸漁業Ⅱ」コーディネーターは宮澤晴彦氏（北大）です。内容等の詳細については夏の学会短信でお知らせ致します。

学会誌『北日本漁業』第31号が近日中に送付されます。

\*理事・監事の方には別途案内のとおり、理事会を12時20分から開催します。

当日の連絡は、0138-23-8261（北海道指導連函館支所）に願います。

北日本漁業経済学会事務局：北海道大学水産学部  
経営経済情報学教室 〒041-8611 函館市港町3-1  
TEL.&FAX 0138-40-8835